

令和5年度 サン・スマイル 事業計画

【特別養護老人ホーム サン・スマイル】

～尊厳と心地よさを～

ご利用者一人ひとりに誠実に向き合い、個々の思いを大切にし、平穏で実りある毎日が送られるよう支援します。

1. 生活援助及び介護

(1) 人権を尊重し、その人らしい生活を支えます

- ・ご利用者、ご家族の意向を尊重し、希望される生活に応じたサービスが提供できるよう、多職種が連携し個々を理解した上でケアプランを作成し、分かりやすく説明・同意を得てサービスを提供します。
- ・プライバシーを保護し、拘束等のないケアへの取り組みをさらに推進し、ご利用者の生活の尊重と人としての尊厳を守ります。
- ・ご利用者を中心とした生活支援の経過や評価を記録する事で、情報共有を密に行い、より良いサービスの提供に繋がります。
- ・ご利用者一人ひとりの個別性を重視し「自分らしい生活」が送られるよう、機能の維持・向上に繋がる取り組みを行うとともに、体調変化等には速やかに対応する即応性のある細やかな配慮を心掛けたサービスを継続します。
- ・ご家族との情報の共有化を図り、共にご利用者の生活を支えます。

(2) 安心・安全なサービスの提供に努めます。

- ・ご利用者一人ひとりの生活状況を把握し、個別マニュアルの活用と随時見直しを行い、事故の未然回避を図り、安全・安心に生活して頂きます。
- ・事故等が発生した場合には速やかに適切な対応をするとともに、再発防止に努めます。
- ・法人理念を職員全員が共有し、魅力ある施設づくりに取り組みます。
- ・法令や職員倫理規程等を遵守し、役割と責任を自覚し行動します。
- ・サービス提供上知り得たご利用者等の個人情報については、慎重に取り扱い秘密を守ります。
- ・施設・事業所での継続的な自己点検(自己評価)、ご利用者やご家族、第三者委員・介護相談員の方々からのご意見・苦情等を真摯に受け止め、福祉サービスの向上と業務の改善に繋がります。

- ・施設入所サービスにおいて前年度より利用率向上を目指します。

2. 人材育成

(1) 職員の育成・資質向上に取り組みます

- ・職員同士、相手を思いやり、十分なコミュニケーションをとり情報共有することで、仕事を通じての成長を目指します。
- ・職員一人ひとりがキャリア階層ごとの役割を理解し、求められる能力を発揮するとともに全体のチーム力が向上するよう努めます。
- ・マニュアルを活用し、実践に即した研修、階層別研修、エルダー制等に取り組み、職員の育成・定着に繋がります。
- ・自己研鑽のための研修に参加し、「考える」という力を養いスキルアップを目指します。

3. 地域貢献

(1) 地域との連携を図ります

- ・地域の一員として、積極的に地域との交流を図ります。
- ・地域の社会福祉法人、関係団体等と協働し、地域の課題に取り組みます。
- ・地域の社会資源として、施設の機能と強みを活かし、地域のニーズに柔軟に対応します。
- ・施設の取り組みや魅力を発信し、また福祉に関する幅広い情報を提供します。
- ・介護・福祉を担う次世代の人材を育成する為、積極的に実習生やボランティアを受け入れます。

4. 医療・看護

(1) 健康維持・増進に努めます

- ・ご利用者一人ひとりの心身の状態について多職種が連携し、日頃の健康状態の把握と的確な経過観察記録により疾病の早期発見に努めます。又、ご家族、主治医との連携を密にし、適切な処置、対応を行います。
- ・皮膚の清潔や栄養などの生活環境を整え褥瘡予防に取り組み、ご利用者が健康で過ごされる様支援します。
- ・知識・技能と心豊かな専門職を目指し、研修への参加と実践を通じた資質の向上に努めます。又、介護職員が安心した医療ケアが実践出来るよう、医療知識の助言・指導を行います。

(2) 感染症対策に努めます

- ・衛生管理に十分留意し、安全で快適な環境整備を心がけます。
- ・感染症に関する流行等の情報収集を行い、正確かつ迅速に職員伝達・共有する事で未然回避への意識を高め、感染症対策委員・安全衛生委員と共に感染症の発生・蔓延を防ぎます。
- ・感染症が発生した際は、各種マニュアルに沿って適切な対応を行います。
- ・感染症が発生しやすい時期には、予防と対策について職員研修を行います。

(3)安全衛生に努めます

- ・職員の健康診断を行い、産業医との連携のもと生活習慣病の予防に努めます。
- ・メンタルヘルスケアに取り組み、職員が生きいきと働きやすい職場環境となる様努めます。
- ・福祉機器等を活用等し、職員の腰痛予防や業務の効率化に努めます。

(4)看取りケアの実施に向けて

- ・ご利用者・ご家族との話し合いや嘱託医との連携を深め、ご利用者が穏やかに安心してその人らしい最期を迎えられるよう「看取りケア」に向け体制を整え、今年度後半には取り組みます。
- ・「看取りケア」に対し、職員皆が適切で共通した認識・対応が出来る体制をとるための職員研修を定期的に行ないます。

5. 食生活

(1)楽しみのある食事提供に努めます。

- ・ご利用者の嗜好を把握し、旬の食材を取り入れる事で季節を感じて頂き、見ても食べても楽しめる食事を提供します。
- ・一人ひとりのニーズや栄養状態に応じた食事提供できるよう、栄養ケア計画を作成し、食生活を支援して健康の維持・増進に繋がります。
- ・給食委託業者と十分な連携をとり、より良い食事が提供できるように努めます。

6. 個別機能訓練

(1)身体機能と日常生活動作能力の維持に努めます。

- ・多職種が連携をとり、ご利用者個々のニーズと残存機能・生活動作能力に応じた個別の訓練計画を策定し、ご本人・ご家族の同意のもと、日常生活動作能力の維持向上に向けた機能訓練サービスを提供します。
- ・拘縮の予防や安楽な姿勢を保持する為に、適切なポジショニング(体位)の実践・指導を行い、多職種が連携を図りながら継続的に取り組んでいける体制作りに努めます。

- ・利用者をはじめ、職員も安心・安全な介護を実施するため、福祉機器並びに福祉用具の使用・導入に向けた取り組み(研修等)を積極的に行ないます。

7. 防災・防犯

(1) 防災・防犯対策の強化に努めます

- ・外部要因による災害のリスク回避に対し、様々な消防計画・防災計画に基づき、各種対策、訓練の計画・実施に於いては、地域や関係諸機関と連携を図り防災管理体制を整えます。
- ・地域や関係諸機関と連携し防災対応マニュアルを整備し訓練を実施、検証することで対応能力を高めます。又、災害時に必要な備蓄品の確保と定期点検を行い緊急時に備えます。
- ・職員への緊急連絡としての防災メールを活用し、受信訓練を行う事で、緊急時体制を整えます。
- ・不審者対応マニュアルの活用、防犯に関する研修や訓練、設備活用等の対策により、安心・安全の確保に努めます。

8. 住環境

(1) 快適な環境作りに努めます。

- ・ご利用者一人ひとりの生活の場が、清潔感のある快適で安全な生活空間になる様、環境整備・美化に努めます。
- ・省エネとコスト意識を持ち、設備や備品等を適切に取り扱います。

(2) 気持ちよい空間作りに努めます。

- ・おもてなしの心を大切にし、居心地の良い環境づくりに心掛けます。

【在宅サービス】

～住み慣れた地域で、その人らしい暮らしが送られるよう、
質の高いサービスの提供を目指します。～

【ショートステイ サン・スマイル】

1. 生活支援及び介護

- ・ご自宅での生活状況を十分に把握すると共に、居宅介護支援事業所と連携をとり、ご利用中のサービス内容、提供する介護について適切に計画・実施し、ご利用者が在宅での生活を続けられるよう支援します。
- ・併設施設において、行事やレクリエーション、ご利用者同士の交流など活動の場として、生きいきとした生活が送られるよう支援します。

1. 介護負担軽減への支援

- ・ご利用者と同居されているご家族の、一時的な介護困難や自由時間の確保など、負担軽減に配慮しスムーズな受入れ体制を整えます。

2. 安心・安全なサービス

- ・ご家族や居宅介護支援事業所に、ご利用中の様子をお伝えし、ご利用者・ご家族が安心して継続的にご利用して頂ける様サポート体制を支えます。
- ・ご家族と連携・情報交換し、ご利用者の心身の状況についてよく把握する事で、異常があった際には、ご家族やケアマネージャーと連携し適切な対応を行ないます。
- ・事業所内はもとより、送迎においても安心・安全にご利用頂ける様心掛けます。
- ・地域の方々が安心して在宅生活が継続出来るよう、各関係機関との情報共有を密にし、選ばれる施設を目指すと共に前年度より利用率を向上させます。

【デイサービス サン・スマイル】

1. 自立的な生活への支援

- ・介護予防・重度化防止のために、職員個々が専門性を日々学ぶ中で、専門スタッフによる場面に併せた介護サービス及び生活相談を行い、生活に良いリズムを作る支援に取り組みます。
- ・日中の活動を活性化させることで、夜間の快眠につながるような活動(アミューズメント、リラクゼーション、リハビリ、季節に合わせた創作活動等)をご本人の志向に合わせて提案し、

個々の選択方式にて取り入れ実践します。

- ・5人程度のグループを形成し、様々な活動について働きかける事で、きめ細やかな支援に繋げ、利用者一人一人の意欲向上に繋がります。
- ・ケアプランデータ連携をはじめとする情報連携・処理システムを活用することで、居宅介護支援事業所やかかりつけ医等関係機関との迅速な連携や業務効率化に努めます。

2. 社会参加・交流への支援

- ・閉じこもりを防ぎ、生活意欲を引き出すよう、交流の場としてもご利用いただき、レクリエーション活動や外出等を通じて利用者の社会参加を支援します。
- ・外部講師を招いてのクラブ活動、季節の行事等を取り入れながら、地域交流の機会を設けます。

3. 個別機能訓練

- ・ご本人、ご家族のニーズを把握した上で、かかりつけ医を含めた多職種と連携をとり、意見を取り入れながら、専門職による個別機能訓練計画を作成します。ご本人、ご家族の同意のもと、生活機能維持向上に向け効果が確認出来るような機能訓練サービスを提供します。

4. 介護負担軽減等への支援

- ・ご利用者とともに暮らすご家族の、一時的な休息や自由時間の確保など、負担軽減となるようにサービスを提供します。

5. 安心・安全なサービス

- ・様々な感染症対策を講じることで、安心して事業を展開することが出来る環境を整えます。
- ・ご家族との懇談会、季節行事に併せた定期発行のお便り、連絡ノートなどで、ご利用中の様子をお伝えします。
- ・通所介護の取り組みについて、居宅支援事業所に、お便りを発行する等、利用登録人数1日20名、稼働率を90%以上となるよう、広報活動を定期的に行います。
- ・ご利用者の心身の状況については、ご家族と情報共有し、異常があった場合には、ご家族やかかりつけ医等との連携により適切な対応をします。
- ・事業所内はもとより、送迎においても安全に安心してご利用いただけるように心がけます。

【ケアプラン サン・スマイル】

1. ケアマネジメント

- ・ご利用者の意思を尊重し、その方の立場に立ち、公平中立に業務を行います。

- ・ご利用者の心身の状態や生活環境に適した介護サービスが提供されるように、地域の社会資源を十分に活用し、一人ひとりに相応しいプラン作成に努めます。
- ・ご利用者やご家族の状況、サービスの実施状況等を把握し、必要なプラン変更には速やかに対応するように努めます。
- ・併設の在宅サービス事業や他のサービス事業所と連携強化を図ります。
- ・多職種協働のネットワークにより、地域の中でのご利用者の暮らしを支えるため、各種会議・学びの場(web 会議・研修含む)に参加し、情報共有・マネジメントに努めます。
- ・ケアプランデータ連携をはじめとする情報連携・処理システムを活用することで、居宅介護支援事業所やかかりつけ医等関係機関との迅速な連携や業務効率化に努めます。
- ・難しい事例は事業所全体で問題の解決方法を探っていきます。また、対応困難な場合、地域包括支援センターに相談しながら連携を図り、解決していきます。
- ・介護支援専門員 1 人あたりの要介護ご利用者受け持ち目標件数を 35 名(要支援利用者については 2 件で1件とする)で取り組みます。

2. 相談対応

- ・事業所内部での情報共有を行い、担当者が不在であっても適切に対応が行えるようにします。
- ・事業所として、24 時間電話対応が可能な体制を整え、柔軟に対応します。
- ・生活上の些細な事柄に対してもきちんと受け止め必要な対応をします。
- ・高齢となる障害者の方には、相談支援事業者等と十分な連携を図り、障害サービスから介護保険サービスの移行がスムーズにできるように、適切な相談対応を行い支援します。
- ・身近な相談窓口として、地域の声に耳を傾け、また関係機関(行政・医療・各サービス事業所等)との関係作りに努め、選ばれる居宅介護支援事業所を目指します。

サン・スマイル 事業報告

1 主要事項

令和5年度の利用状況（利用率）は以下の通りとなった。

- ・施設入所事業（定員50名）89.7…%（前年度88.2%）
- ・短期入所事業（定員10名）26.7…%（前年度22.6%）
- ・通所介護事業（定員20名）87.1…%（前年度74.3%）
- ・居宅介護支援事業…要介護者が月平均77.8件（前年度81件）
要支援及び事業対象者が月平均14.7件（前年度11.2件）

サン・スマイル移転後、約3年が経過し地域に対し施設の魅力をPR出来、どの事業も利用率がアップした。

施設入所に於いては、利用者の更なる高齢化・重度化に伴い、入退所のサイクルが段々加速した年となった。年間退所者：16名。4月初旬は前年度3月からの新型コロナウイルス感染症のクラスター発症の影響で、4月時点で利用者の死亡や回復困難で退所になられるケースがあった。年間入所者は21名であり、年度末には、何年ぶりに利用者の定員50名に達する事が出来た。短期入所については、毎月2～3名程度の新規利用者をお迎えする事となったが、要介護の低い方や要支援の利用が多く、1利用者の利用日数が1泊2日の方々がが多い傾向にあった。又、利用予約は入るが、体調不良や感染症を考慮しキャンセルも多々あり、年間利用率は伸び悩んだ。

通所事業に於いては、地域の方はもとより、遠方の方々にも周知して頂き利用率が上がった。リハビリ目的や活動に着目した利用希望の方も多くあり、キャンセル待ちの方がいらっしゃる事から、次年度5月から利用定員を20名から23名の受け入れに変更する。居宅支援も、地域に根付き行政やあんしん支援センターからの依頼が増えた。しかし、高齢者化や看取り介護の急増により、短期間利用が増加し月プラン作成は伸び悩みがあった。又、利用傾向としては、介護と医療の連携が言われ、ご自宅での看取りの増加にて、早期プラン策定・提示・変更等業務的にはハードな業務となっているが、利用者・家族支援として地域を支えた。

年度末には「自然災害事業継続計画」「感染症事業継続計画」が完成した。次年度は計画を基に研修や実際に避難想定をイメージした訓練を行っていく。又、サン・スマイルも行政からの要請により、「福祉避難所（直接避難型）」の協定の締結を行った。施設の様々な機能を生かし、地域に頼られる施設になれるよう努めていきたい。

2 評価・反省

【施設サービス】

1) 生活支援及び介護

ご利用者の日々の様子や個々の思いを尊重し、体調や身体状況に合わせてケアの変更や個別支援・

サービス提供を行う事が出来た。また、職員間で情報共有しながら、本人様やご家族様のプライバシーを尊重した支援も行った。

活動としては感染症による制限は緩和されつつあるものの、主に施設内での行事やレクリエーション等の計画実施となった。運動会や七夕会、クリスマス会、新年会、節分等の行事では季節を感じていただくことが出来た。敬老会はコロナ禍に実施出来なかったご家族様や演芸ボランティアの方々をお招きし盛大に開催する事が出来、ご利用者、ご家族様に楽しんでいただけた。運動会ではサンサン保育園の園児さんとの交流も出来、普段とは違った利用者の一面も見る事が出来た。行事のほかにもご利用者それぞれの能力、好みにあわせた活動や、花や野菜の苗植え、収穫、調理等を計画しご利用者の出来る力を発揮して頂き楽しめる活動が出来た。個別やグループでの外出支援は今年度中には実施出来なかったが来年度には計画、実施していきたい。

面会に関しては新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、制限の緩和を行い対面での面会を再開した。面会場所、時間、飲食等制限はあるもののご家族様との時間を過ごしていただけた。又、面会時に日頃の様子をお伝えした。

感染症事業継続計画を3月に完成する事が出来た。次年度早々に全職員に対し、研修・訓練を実施していく。

今後は、感染症の流行を見つつ施設内だけに留まらず、地域との交流が行えるような支援展開をしていきたい。

2) 人材育成

職員間の情報共有を十分に図り利用者・家族支援に繋げる事が出来た。職員同士声掛けをしながら協力体制、思いやりの心を持って業務遂行ができた。

今年度3名の新職員を迎え不安解消のためのエルダー制による指導は、記録物での助言や意見交換会の実施をする事で思いを共有し不安解決に努めた。

キャリア階層ごとの研修は外部研修に参集型やオンライン研修に多くの職員が参加する事が出来、自己研鑽できた。しかし、他職員に向けた復命研修が出来なかった。次年度は、専門分野はもとより、あらゆる分野の研修に参加しサービス提供に繋げていきたい。

企画委員会主催の内部研修も多くの職員に参加して頂き、様々な事柄に対し定期的に意識付けや、改めて考える機会となった。

3) 地域貢献

コロナに対し制限が緩和されてきてはいるものの、まだ感染予防が必要としている状況で、積極的に地域との関わりを持つ機会は多くなかったが、少しずつボランティア活動など、職員が地域へ出掛ける機会があった。施設行事にボランティアの方をお招きしたり、実習生や体験学習で学生の方の受入れを行った。また、施設案内や施設サービスについての情報提供を行い、地域のニーズに対応出来るよう努めた。

今後も施設の取り組みや魅力を発信すると共に、地域との関わりを大切に、実習生やボランティア等、外部の受け入れにも力を入れていきたい。

4) 医療・看護

日々のご利用者の健康状態を各専門職が情報共有する事で、状態の変化を早期に発見し処置・対応する事が出来た。又、皮膚トラブル等に於いても、定期的に皮膚の状況の変化を画像に残し観察する事で、発生原因の究明やケア・体位変換等の変更により早期完治に努める事が出来た。しかしご利用者の更なる高齢化・重度化に伴い、誤嚥性肺炎・食事摂取困難・食事摂取量低下に関連した脱水や尿路感染で入院されるケースが多かった。嘱託医との情報共有・連携を密にし、ご利用者の突発的な状態変化の際も指示を仰ぎ早期に対応することができ、ご家族にも状態の変化を都度連絡し協力を得ながら対応した。

又、食事摂取量を見ながら、毎月体重測定を行い、ご利用者様の状況に応じ他職種が連携し食量や食形態・補助食品での対応を行い、栄養状態の改善・褥瘡予防に努めた。

感染症に於いては、新型コロナウイルス感染症のクラスターでの経験を活かし、感染者が出た際は職員間で相談・情報共有することで混乱なく初動にあたることができ、協力しながら感染拡大を防ぐことができた。

今年度より「看取りケア」の実施を進めてきた。マニュアルの作成、職員研修を行い「看取りケア」に対する意識付けが出来た。次年度実践後の評価を共有し、利用者が穏やかな最期を迎えられるよう努めていく。

5) 食生活

ご利用者に食事を楽しんでいただけるように、旬の食材を取り入れた献立を検討し、季節感を感じて食事への関心や楽しみを持ってもらえるように努めた。初の試みとしてご利用者が食べたいと希望されていた握り寿司献立を取り入れご利用者に喜んでいただくことができた。

また、ご利用者の摂取状況や嚥下状態の変化に迅速に対応し、できるだけ経口摂取が継続できるよう支援を行った。多職種と連携し栄養状態の改善に向けて栄養ケア計画書に基づいた食生活支援に努めた。

6) 個別機能訓練

ご利用者の生活状況に沿った訓練メニューの提案・ポジショニング実施の為、実際の生活動作状況・姿勢状態の把握に努めた。また、他職種からの情報収集にも努め、実際の生活に反映しやすい訓練メニューの作成を行うことが出来た。

福祉用具、福祉機器の普及についても引き続き力を入れ、新しい機器の導入検討、利用者・職員ともに安全にケアが行えるように施設内での研修、個別での指導を行う事で機器の使用しやすい環境を設定することが出来た。今後も他職種連携を図りながら各利用者にあった訓練メニューの立案や環境

設定を行っていく。

7) 防災・防犯

日中想定と夜間想定の避難訓練を出雲西消防署員・神西消防団立ち会いのもと実施した。講評では、夜間に火災が発生した場合は、2名で対応する事になるので声を出して連携がしっかりとれる様にとの助言を頂き職員への意識付けとなった。又、通報訓練・模擬消火器訓練も併せて行った。

出雲西交番から講師をお招きした不審者対応研修では、不審者への対応や不審者の見分け方、さす又の使用方法等の講義を受けた後に、さす又を使用しての実践訓練を行った。

防災メールを毎月1回全職員に送信し、返信メール訓練を実施した。今後は、定期の訓練に加え普段から職員への情報発信としても使用していく。

自然災害事業継続計画の作成を行った。作成していく中で、災害をイメージしながら作成していく事の難しさを痛感しながら作成した。次年度は全職員でBCPを基に研修・訓練の実施を進め、「いざ」という時に落ち着いて行動できる様、更新・改定を行っていく。

8) 住環境

ご利用者の快適、安全な環境作りとして、感染症の対応から手すりの消毒や換気の徹底・居室内の清掃等、各職員役割分担を決め施設内環境に努める事が出来た。

物価高騰が続き、エアコンの温度調整オン・オフ、必要のない場所の消灯など節電等コスト意識を持ち対応した。

ご利用者の気持ちの良い生活環境・来所者へのおもてなしとして、食堂や正面玄関に季節の飾り付けを行い、施設に関わる方々（利用者・職員・外部の方）に対し気持ちの良い空間作りに努めていきたい。

【居宅サービス】

1) ショートステイ サン・スマイル

利用者のニーズに合わせたサービス提供の為、サービス担当者会議に参加することで、利用者・家族の意向や自宅での生活の様子を把握しサービスに反映できるように努めた。また、居宅サービス計画書に基づいてサービスを提供できるよう、計画の変更や介護保険更新時にはケアマネジャーや他事業所と情報共有を行い、都度計画に沿ったサービス提供が出来るように対応を行った。利用時にはレクリエーションや季節に合わせた施設行事・創作活動等に参加して頂けるよう促し、多くの活動に参加して頂くことが出来た。活動以外でも、利用者同士や施設入居者との交流も見られることが出来た。

健康管理については、利用前日の事前連絡の際に体調確認を行い、来所時にバイタルチェックを行った。また、入浴前にも検温や血圧測定を行い、都度体調の確認をしながら安全に入浴して頂けるよう努めた。利用中は様子観察を行い、異常発見時には家族や担当ケアマネジャーに連絡し、受診を勧める等の対応をした。昼食、夕食前のリハビリ体操は機能訓練指導員を中心に行い、参加して頂く

事が出来た。利用中は自宅での生活と同様に身体機能を使用してもらうように、移動等の日常生活動作の中でリハビリが出来るよう意識して声掛けや介助を行った。

食事に関しては、利用者それぞれにあった食形態で提供し、食事時の様子や体調、身体機能の変化がある際に都度見直しを行った。

個人情報・プライバシーの保護に関しては、十分に配慮し、利用者一人ひとりを尊重した対応を行うことができた。

リスクマネジメントとして、利用中に発生するリスクについて、自宅や他サービス利用時の様子を参考にすることで対応した。その為、家族やケアマネジャー、他事業所と情報共有を行い、個々人に適した対応を行えるように努めた。センサーマットを使用している方へは、利用中の様子や本人・家族の意向を受け、適宜現場とも協議しながら検討、実施し事故防止に努めた。

2) デイサービス サン・スマイル

新築移転し3周年を迎え、地域の中で『デイサービス サン・スマイル』が定着し20名定員利用率が9割を超える日も出てきた。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、引き続き検温、手洗い、消毒、換気等、予防に努めた。又、体調不良者への初期対応を迅速に行う事で蔓延する事なく通常のサービス提供を行う事が出来た。

日々の活動に於いては、天候に併せて屋外スペースを活用し、テラスでの花植えやお茶会、散歩などを取り入れた。又、創作やゲーム、バイキングなど季節ごとの回想を取り入れる事で、若い頃の話をしてしながら振り返られる場面があった。夏祭りなどの行事やボランティアの来所で娯楽室を活用する機会が増えご利用者に喜ばれている。

サン・スマイル移転後初めて家族懇談会を開催する事が出来、施設内の見学や実際に利用者で行う体操体験や、スライドショー等を通じて活動の内容や様子をお伝えする中で日頃の活動をお伝えし情報共有の場となった。

感染状況を確認しながら、家族懇談会の開催、定期的なボランティア（将棋、麻雀、話し相手）の来所や保育園児との交流などが徐々に行えるようになり、活動の幅が広がり利用者の表情も穏やかになり、とても喜ばれている様に感じている。

個別機能訓練では、介護士や看護師、理学療法士など他職種が連携して、ご本人やご家族の意向に合わせた計画を、かかりつけ医の意見を取り入れながら立案した。小集団または、1対1の個別訓練を利用者と共に楽しみながら実施し、生活機能や能力の維持向上を図る事ができた。次年度は、引き続き感染予防を講じながら、積極的な屋外での活動や外出、地域の方々との交流会の提供などを計画し支援していきたい。

3) ケアプラン サン・スマイル

ご利用者やご家族の状況の変化(高齢・持病等)にてプラン変更も多く、特に看取りのご利用者は、

サービスの展開が早くその都度プラン作成やサービス調整など迅速な対応を行う事が出来た。又、介護認定結果がわかるまで1カ月以上かかる場合もあり、ご利用者・ご家族の希望サービス量を調整し自費が出ないように対応した。

市役所からの居宅依頼は、月によってバラツキがあったが断ることなく引き受けたが、サービスに繋がらないケースや入院・看取り等短期間で終了するケースも多く、新規を受けても目標値を維持することは難しかった。

近年、女性ケアマネ希望の割合が多く断らないように受けたが、受付段階で行政が女性ケアマネに依頼する等配慮している場合もあり、ケアマネの偏りが出ないように初回訪問時にご本人・ご家族と相談して男性ケアマネが引き受けるケースもあった。初回は作成する書類も多く、何ケースも続けて受けるとケアマネへの負担が大きかった。

今年度は、他事業所からの居宅変更もあり、前任ケアマネから変更になったいきさつ等を聞き対応したが、どのケースもケアマネの傾聴する姿勢やサービス提案等の基本的な事だった為、問題なく引き継げた。ケアマネの対応として、私達にも起こり得る内容だけに自分を振り返る良い機会となった。要支援のご利用者でも将来的なサービスの事や受け入れ先がないとのことで引き受けてきたが、担当している要介護Ⅰのご利用者が、サービスを利用する事で状態が良くなり、要支援になられる確率が高く全体の要支援者の割合が多くなってきた。高齢者あんしん支援センターとの関りを保ちながら今後も、要支援者の受け入れについては検討していく。

来年度は、業務の効率化等にも力を入れていきたい。